

令和5年産

大豆情報 (Vol.1)

令和5年7月31日

宮城県石巻農業改良普及センター

Tel : 0225-95-7612 Fax : 0225-95-2999

技術情報はこちらのQRコードからも！



6月以降の気象経過

○6月の平均気温は、全体で平年より高めに推移しました。日照時間は平年並で、降水量は16日の大雨(112 mm)と上中旬の定期的な降雨により、平年より多くなりました。

○7月の平均気温は、上中旬で平年より高めに推移しています。日照時間は、上中旬で平年より高めに推移しています。降水量は上旬では少なく、中旬では19日の大雨(74.5 mm)と定期的な降雨により、平年より多くなりました。

○東北地方南部は6月11日に梅雨入りし、7月22日頃に、平年より2日早い梅雨明けとなりました(* 気象庁 令和5年の梅雨入りと梅雨明け(速報値)7/23現在)。

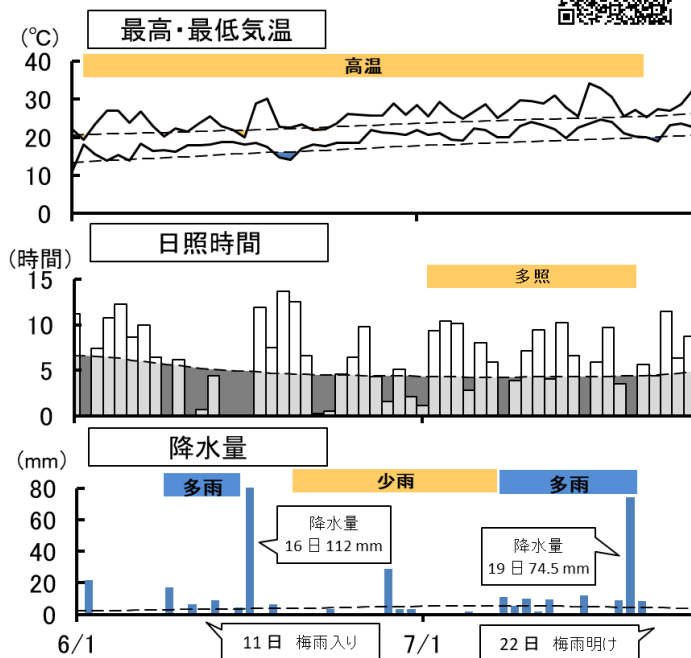


図1 気象経過(アメダス石巻)

※上: 最高・最低気温、中: 日照時間、下: 降水量
※点線は平年値

生育調査結果(7月25日)

- 播種の遅れにより平年に比べ生育に遅れ
- 生育は順調

タンレイ(水沼) 6/20播種

栽植密度 15.1 本/m²

タチナガハ(蛇田) 6/26播種

栽植密度 11.9 本/m²

ミヤギシロメ(小船越) 6/3播種

栽植密度 11.3 本/m²

ミヤギシロメ(城内) 6/21播種

栽植密度 10.6 本/m²

- ◆タンレイ：播種時期は平年より遅く、主茎長、主茎節数、分枝数ともに平年を下回っています。
- ◆タチナガハ：播種時期は平年より遅く、主茎長、主茎節数、分枝数は平年を下回っています。
- ◆ミヤギシロメ：河北では播種時期は平年より早く、主茎長、主茎節数は平年を上回っています。

桃生では播種時期はほぼ平年通りで、主茎長、主茎節数は平年を上回っています。

→ 調査ほでは播種の遅れにより平年に比べ生育に遅れが出ているが、生育自体は順調です。

表1 生育調査結果(7月25日調査)

品種 (作型)	地点名 (旧市町)	播種日(月日)			主茎長(cm)			主茎節数(節/本)			分枝数(本/本)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
タンレイ (麦あと)	水沼 (石巻)	6/20	+10	+8	26.3	-2.5	-10.5	7.4	+0.2	-1.0	0.0	+0.0	-0.7
タチナガハ (麦あと)	蛇田 (石巻)	6/26	+4	+15	26.1	-1.8	-7.4	6.5	-1.1	-2.6	0.0	-0.1	-0.4
ミヤギシロメ (普通)	小船越 (河北)	6/03	+1	-13	49.3	-14.6	+11.3	10.9	+0.4	+3.0	1.8	+0.6	+1.2
ミヤギシロメ (麦あと)	城内 (桃生)	6/21	+0	+1	38.9	+0.0	+4.9	8.6	+0.2	+1.3	0.6	+0.4	+0.4

※1 平年値：H30～R4の5か年平均

※2 「-」は早い、短い、少ない、「+」は遅い、長い、多いを示す。

開花状況

○ 開花期が4～7日ほど早まっている傾向！*。

紫斑病対策には適期の薬剤散布(開花期後20～40日)が重要です。開花期を確認して防除日を決めましょう。

大豆の開花期は、「1つでも開花の見られた株が全株の4～5割に達した日」です。開花は、ほ場の外からでは判断しにくいので、必ずほ場の中に入って観察し、正確に判断しましょう。

* 古川農業試験場の作況試験では5/25播種(標播)のタンレイが7/18(平年差-7日)、ミヤギシロメが7/27(平年差-4日)に開花しました。

表2 調査ほの播種日と開花期

品種(作型) 地点名(旧市町)	播種日 (月日)	開花期 (月日)
タンレイ (麦あと) 水沼(石巻)	本年	6/20
	前年	6/10
	平年	6/12
タチナガハ (麦あと) 蛇田(石巻)	本年	6/26
	前年	6/22
	平年	6/11
ミヤギシロメ (普通) 小船越(河北)	本年	6/3
	前年	6/2
	平年	6/16
ミヤギシロメ (麦あと) 城内(桃生)	本年	6/21
	前年	6/21
	平年	6/20

開花期の把握がずれると
紫斑病の適期防除の時期がずれ、
防除の効果が下がります

◆中耕・培土

◎ 通常開花期の10日前までに終わることとなっていますが※、大雨被害のあったほ場では、**開花期10日前以降であっても**、管理機が入れる生育量であれば、**中耕・培土**を行いましょ。

※ 中耕・培土は遅すぎると、根の切断や花、莢に損傷を生じるだけでなく、分枝が機械に絡まることによって倒伏を助長するなど、減収につながる場合があります。

◆追肥

中耕・培土が優先、黄化が回復しない場合は地力や生育をみて要否を判断！

◎ 湿害等により葉色が著しく淡い場合や生育不良の場合には、硫安などの速効性肥料で生育回復を図りましょ。施用量は**窒素成分で3kg/10a**程度が目安です。尿素の葉面散布を行う場合は、肥料焼けしないよう原液を水で希釈して行いましょ。ただし、窒素過多は根粒菌の活性を低下させます。追肥する場合は、中耕培土後の葉色の推移を観察してから行いましょ。

◎ 大豆は開花期以降多量の窒素を必要とするので、最終培土時に緩効性肥料(LP40)を現物で12.5kg/10a(窒素成分で5kg)程度施用しましょ。なお、地力が高いほ場では追肥の効果が低い傾向がありますので、追肥の実施はほ場条件を考慮して決定しましょ。

※ ミヤギシロメでは蔓化・倒伏を助長する場合がありますので、注意しましょ。

◆病虫害対策

タンレイ：紫斑病防除を最優先

ミヤギシロメとタチナガハ：マメシクイガなどの子実害虫防除を優先

◎ 紫斑病

降雨が多く収穫時期の気温が高いと発生が多くなります。特にタンレイで多発しやすいので**タンレイは開花期後20～40日に2回防除**しましょ(同一系統の剤の使用は避ける)。

* **県内でアゾキシストロピン水和剤(アミスター20フロアブル、FRACコード11)の感受性低下菌の発生が確認されました**。前年に紫斑病の多発が見られ、剤の効力低下が確認された場合は使用を中止し、他系統の薬剤であるジフェノコナゾール剤(プランダム乳剤25、FRACコード3)、ジエトフェンカルブ・ベノミル剤(ニマイバー水和剤、FRACコード10、1)、テブフロキン水和剤(トライフロアブル、FRACコードU16)に切り替えてください。

◎ 子実害虫(マメシクイガ、フタスジヒメハムシ、ダイズサヤムシガ、カメムシ等)

☆マメシクイガ

連作ほ場で多発します。8月末～9月はじめに1回目の防除、その7～10日後に2回目の防除を行いましょう。

☆フタスジヒメハムシ

生育初期の葉の食害に加え、若きょうの表面を食害し、そこから雑菌が侵入して汚粒の原因となります。第2世代成虫の発生盛期(8月下旬～9月上旬)に防除を行いましょう。

☆ダイズサヤムシガ

若齢幼虫が大豆の生長点付近の新葉をつづり合わせて食害しているとき(右写真)に防除しましょう。



◎ 食葉性害虫(チョウ目幼虫;ツメクサガ、ウコンノメイガ、オオタバコガ、コガネムシ類)

開花期後(特にさや伸長期～子実肥大期)に食害を受けると減収することがあるので、食害葉面積率20%(右写真)を目安に防除しましょう。



食害葉面積率
20%

◎ アブラムシ類

モザイク病や萎縮病といったウイルス病を媒介し、多発すると早期落葉して収量・品質が低下します。

発生のピークは、8月下旬から9月上旬ですが、葉の黄化・褐変症状が見られたら(写真右)葉の裏を確認し、発生が多いときには薬剤が葉の裏までかかるよう、丁寧に防除を行いましょう。

また、モザイク・萎縮の見られる株は抜き取ります。



◆湿害対策

◎大雨のあとや降雨が続く際は、ほ場を見回り、排水状況を確認しましょう。

排水溝は詰まっていないか



明きよに停滞水が溜まっていないか



◆乾燥対策

◎大豆は開花期以降、多量の水を必要とし、不足すると落花・落きょうにより減収するので、晴天が7日以上続き、土壌が白く乾燥し、日中の葉の半分以上が反転している場合には、暗きよを閉じて水分保持(地下かんがい)するなどの対策が有効です。

◎畝間かん水が可能な場合は実施しましょう。

畝間かん水の注意点

- ①必ず夕方～朝方にする
(日中は絶対にダメ!)
- ②過湿にならないようにする

1か月予報 (7/29~8/28)

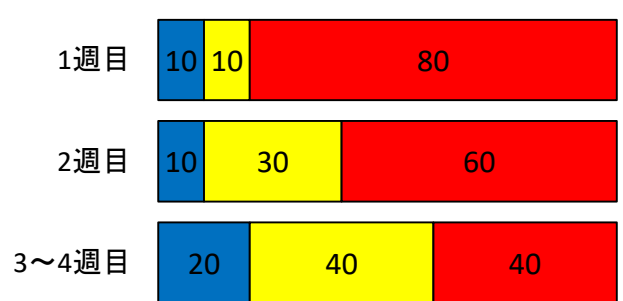
仙台管区气象台 7月27日発表

東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

特に注意を要する事項:期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

○1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

○週別気温経過の各階級の確率(%)



■低い(少ない) ■平年並 ■高い(多い)

■低い ■平年並 ■高い

<予報の対象期間>

1か月 :7月29日(土)~ 8月28日(月)

1週目 :7月29日(土)~ 8月4日(金)

2週目 :8月5日(土)~ 8月11日(金)

3~4週目:8月12日(土)~ 8月25日(金)